

課題探究型学修《KIZUKI プロジェクト》 令和7年度取組報告について

1 本校の KIZUKI プロジェクト

岩手県立岩泉高等学校 課題探究型学修KIZUKIプロジェクト(総合的な探究の時間)



プロジェクト・テーマ

- 1・2学年：自分の興味・関心から探究とは何かを理解する。地域の復興やコミュニティの創出に対して高校生に何ができるか、岩泉をフィールドに課題と向き合い、その改善を考察するとともに高校生が描く解決策を地域の人々と協働して実践することができる。
- 3 学年：自分の進路を見据え、興味・関心を深めることで、学術的に、自分らしく語ることができる。KIZUKI プロジェクトを活用して、自分の将来像を造る。

2 KIZUKI プロジェクト関係 具体的な取組

実施時期	実施事項
4月17日	KIZUKI ガイダンス
5月21日	【復興教育】避難訓練①
6月18日	KIZUKI 観光班によるゲルズ派遣生への英語ガイド (1・2学年)
6月26日	KIZUKI 中間発表会 (3学年)
7月2日	【高校魅力化】KIZ キャラバン① (小本中学校)
7月4日	【高校魅力化】KIZ キャラバン② (小川中学校)

7月10日	【高校魅力化】KIZ キャラバン③（岩泉中学校）
7月10日	【復興教育】ジオラマ防災教室 @岩泉小学校
7月11日	【高校魅力化】KIZ キャラバン③（田野畑中学校）
7月27日	【復興教育】郷土芸能フェス
9月22日	【復興教育】ジオラマ防災教室 @小本小学校
10月9日	KIZUKI 発表会（3学年）
10月9日	KIZUKI 観光班によるクルーズ船観光客への酒蔵ガイド（1・2学年）
10月14日 ～16日	【復興教育】普通救命救急講習
10月21日 ・22日	【復興教育】KIZUKI DAYS（産業体験：2年αコース）
11月5日	【復興教育】全校防災講話
12月11日	【復興教育】大槌高校及び東日本大震災津波伝承館訪問（1学年）
12月11日	【復興教育】午前：講演「震災の教訓を未来へつなぐ」 午後：共助のあり方講座（3学年）
12月18日	【復興教育】1・2学年対象 防災チャレンジ
1月28日	【復興教育】「いわての復興教育」児童生徒実践発表会 パネルディスカッション（代表生徒2名参加）
1月29日	KIZUKI 観光班による岩泉町旅行プランの提案発表会（1・2学年）
2月12日	【高校魅力化】地域担い手講座・ワークショップ（1・2学年）
2月12日	KIZUKI 総括発表会（1・2学年）

3 取組の概況

(1) KIZUKI 観光班によるデルズ派遣生への英語ガイド（6月18日）

【ガイドの様子】

岩泉町の海外短期派遣事業の一環で行われる米国・ウィスコンシン州デルズ市からの留学生受け入れに際して、泉金ホールディングス八重樫氏の指導の下、観光班の1・2年11名が帯同して龍泉洞にて英語ガイドに挑戦した。岩泉町の魅力を世界へPRしながら、英会話の実践力も学ぶ機会となった。



(2) KIZ キャラバン（7月2～10日）

KIZUKI 政策班が、小本中学校を皮切りに町内3中学校と田野畑中学校をめぐり、中学生に対して岩泉高校の魅力を紹介するとともに、本校が取り組むKIZUKI プロジェクトを高校生と一緒に体験的に取り組んでもらった。高校生とのワークショップでは、岩泉町が抱える現状と課題を4つのテーマに分け、各々課題までの分析と、解決策まで構想し、異校種の交流を通して見方・考え方を広げた。

【中学生とのワークショップの様子】



(3) 郷土芸能フェス（7月27日）



【フェスの様子】



地域の伝統芸能を継承する取り組みを通して、

- ① 災害からの復興を目指す地域づくりに活かすこと
- ② 他校との交流を図りつつ、郷土芸能の演舞共演を地域住民に披露することで、地域社会との協働による地域活性化や魅力発信のきっかけとすること
- ③ 大船渡市大規模林野火災による被害の大きかった地域の高校を招聘し、復興支援を行うとともに、災害からの復興を目指す地域同士の絆を深めること

の3つを目的に、KIZUKI 文化班が郷土芸能同好会とともに中心となり、同好会とつながりのある本県各校の郷土芸能団体の協力も仰ぎつつ、高校生による郷土芸能の演舞・演奏の共演を行った。

(4) 小学校・高校連携 ジオラマ防災教室（岩泉小学校7月10日、小本小学校9月22日）

「地域に支えられ、地域を支える学校」として、小学校と高校が連携して地域社会に貢献する人材を育成すること、災害の危険が生じた際、小学生の段階から自分の命を自分で守り、復興を進める岩泉町の防災・減災を考えられるよう、自分たちの町への理解を深めることを目的に、KIZUKI 防災班が取り組んだ。本校生徒がチューターを務めながら、小本小学校児童を対象として、ジオラママップを作成・活用し、小学生とともに岩泉町岩泉地区や小本地区の危険な場所・安全な場所や避難時に必要な事柄などをワークショップ形式で理解した。

【ジオラマ防災教室の様子】



(5) 2学年αコース産業体験（10月21日・22日）

1日目は、岩泉町に新しくオープンした体験型リゾート施設 SYMBALS（シンバルス）にて、ビジネスモデルに関する講義、施設見学、就業体験を行った。2日目は、「岩泉町の魅力を発信すること」「SYMBALSの冬のイベントを企画すること」をテーマにワークショップに取り組み、プレゼンテーションを行った。

【就業体験の様子】



【プレゼンテーションの様子】



(6) 復興教育事業（12月10日）

3学年は、今後起こりうる災害を知ることによって、私たちの生きる大切さや防災および復興に対する考え方を学び直すとともに、共助の概念について学ぶことを目的に、「震災の教訓を未来につなぐ ～自他の生命を守るために～」というテーマで、岩手県立図書館長の森本晋也氏を招き、本県を含めた、わが国の近年の災害の状況を踏まえ、岩手県の復興について考えを深めた。また、「共助の在り方」について、NPO 法人クチュエカ理事・事務局長の鈴木悠太氏を招き、地域コミュニティにおける防災・減災の姿に対して理解を深めた。

1学年は、本県の復興教育の3つの教育的価値である「いきる・そなえる・かかわる」を育成するため、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成を図ることをねらいとして、午前は大槌高生との被災地フィールドワークを行った。午後は陸前高田市の東日本大震災津波伝承館を見学した。

【3学年 グループ学習の様子】



【1学年 東日本大震災津波伝承館の見学】



(7) 1・2学年対象防災チャレンジ（12月17日）

KIZUKI 防災班が、本校生徒の防災意識の高揚を図るため、学校体育館にて実施した。防災4択クイズ、クラス対抗PEE（簡易トイレ作成・擬似体験）レース、ワンタッチパーテーションの設置体験を通して、避難場所の実際を体感した。

【簡易ベッドの設置体験】



(8) MY PROJECT AWARD 2025 岩手 Summit 参加 (12月21日)

【発表の様子】



岩手県立大学を会場に、県下の探究活動を行っている高校から約400名が集う探究学習発表大会に、本校からは、1年生3名、2年生10名が参加した。大会では、KIZUKIプロジェクトでのこれまでの活動、そして今後の活動について発表した。自分たちの成果を他校に知らせるだけでなく、他校のさまざまな研究並びに発表内容を聞き、今後のKIZUKIプロジェクトに活かしていけるアイデアも多く得ることができ、大いに刺激となった。

(9) 「いわての復興教育」児童生徒実践発表会 (1月28日)

盛岡市のトーサイクラシックホールで開催された実践発表会では、種市高校、住田高校と共に、一年間の探究学習の取組と成果を実践発表したほか、パネルディスカッションにて「探究学習を通して自身にはどのような変化があったか」などを、種市・住田両校とさまざま意見交換した。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 総合的な探究の時間と復興教育を結び付けた活動を実施したKIZUKIプロジェクトは、1・2学年が7つの分野テーマ（防災・文化・観光・政策・福祉・経済・広報）の班に分かれて実施した。防災班が実施した「ジオラマ防災教室」は高校生と小学生という次代の地域の担い手が連携して、岩泉町の防災・減災を考える取組となった。また、文化班が実施した「郷土芸能フェス」は3回目の取組となり、地域活性化及び魅力発信の一助とすることができた。なお、大船渡市大規模林野火災で被災した大船渡東高校への復興支援もねらいの一つとし、過去の災害と向き合いながら互いに支え合う姿勢・意欲を高めることができた。

イ 避難訓練や全校防災講話は、岩泉町危機管理課や岩泉消防署と連携して行った。消火器の使い方についての実践や、避難所居住区についての考察、避難所開設資材の設置体験など実践的な学びを多く取り入れて実施した。生徒は当事者意識をもって参加することで、主体的に学びを深めることができた。

ウ 各学年の復興教育事業においても、他校と連携したフィールドワークや、地元企業と連携した産業体験、NPO法人の防災士を招聘してグループ学習を行うなど、生徒は能動的に地域の復興・発展について考えることができた。

(2) 課題

ア 今年度も、総合的な探究の時間における活動と復興教育を連動させている。生徒や教職員が年々入れ替わっていく中で、活動をどのように引き継いでいくかという課題がある。「地域に支えられ、地域を支える学校」の実現に向けて、総合的な探究の時間と復興教育を結びつけたカリキュラムマネジメント、近隣の小・中学校との連携を軸に教育課程を編成していくことが重要である。

イ 外部との連携を増やすことにより予算上の問題が生じる。どの活動を維持・発展させていくかは、次年度以降の継続した課題である。

5 情報発信

広報いわいずみ（泉高 Review）、高校魅力化プラットフォーム『note』

岩泉高校『note』二次元コード

